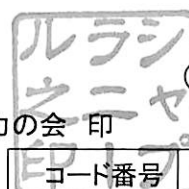


平成 20 年度最終報告書



(様式 10)

被助成者 特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会 印

コード番号 08-A-240

実施事業名 バングラデシュ・マニクゴンジ県における少女グループ、高齢者支援活動を
通じた地域づくり

～バングラデシュでの実践と日本での全国キャラバンを通じた市民同士の共有～

助成期間 平成 20 年 11 月 1 日～平成 21 年 10 月 31 日

<報告要旨>

バングラデシュでは 1990 年代以降の急速な経済発展に伴い、農村地域に存在していた相互扶助の仕組みが崩壊するなど、新たな社会問題も発生しつつある。こうした影響をコミュニティにおいて最も顕著に受けるのは高齢者である。かつては人生経験と知恵を持つ人々として尊敬されていたが、次第に無視され孤立するようになってきている。一方、農村地域に住む思春期の世代の少女たちは好奇心とエネルギーに満ち、地域の役に立ちたいという切なる願いを持っている。彼女たちにとっては多くのことを学び、吸収できる時期であり、彼女たちの潜在能力を活用することが、自身の成長とともに地域のためにもなる。

シャプラニールはバングラデシュ・マニクゴンジ県において現地 NGO「STEP」とともに、地域において「取り残された人々」となっている高齢者への支援活動、そして「取り残された人々」の周辺の人々である地域の少女たちの豊かな可能性が開花するような少女グループ活動を実施している。またこうしたバングラデシュでの活動を日本の市民に伝えるとともに、バングラデシュの担当スタッフが日本における地域での取り組みや課題を学ぶための全国キャラバンを日本全国 32 カ所で実施した。

【活動の目的】

シャプラニールの活動地域センターから 2003 年に独立した STEP は、2002 年から活動地域に暮らす少女たちへの活動を実施している。この少女グループ活動は、彼女たちの知己式の習得のみならず、自らが地域の担い手となるような様々な取り組みを自分たち自身で企画し、実行していけるよう、STEP のフィールドスタッフが少女たちへのファシリテーションを行っている。一方、これまで NGO の支援の対象から取り残されてきた高齢者への支援活動も STEP は 2006 年より本格的に実施し、活動地域内の高齢者の状況把握や医療活動を行っている。2007 年の洪水時には少女グループのメンバーが高齢者世帯への支援を積極的に行った。シャプラニールと STEP はこうした NGO 支援から「取り残された人々」への支援や、「取り残された人々」を取り巻く人々である少女たち自らが豊かな可能性が開花するような活動を実施している。

また 2008 年 11 月から実施した全国キャラバンでは、こうした STEP の活動を日本の一般市民に伝えるとともに、日本の市民が地域でどのような活動を行っているのかを知ることで、将来、高齢者や障がい者など、支援を必要とする人々をバングラデシュの地域コミュニティ自身が支えていけることを目的として実施した。

【活動の内容と方法】

申請期間中にパートナー団体「STEP」とともに以下の活動を実施した。また 2008 年 11 月から 12 月にかけて日本において全国キャラバン活動を実施した。

①少女グループ支援活動

ギオール郡、ドウロトプール郡の活動地域で計 21 のグループ(878 人)に対して定期的な会合を実施し、保健衛生や自分たちの社会の課題などを学んだ。また定期的な会合以外に申請期間内に以下の活動を実施した。

●地域の祭りや祝祭日イベントにおける啓蒙活動

申請期間中、ギオール郡において4回、ドウロトプール郡において3回、地域の祭りや祝祭日イベントが行われ、そこで少女たちが定期的な会合で学んだ「早婚」、「持参金」や保健衛生の重要性をテーマとした演劇を披露。村人に対する演劇を通じた啓蒙活動を実施した。

●少女グループ全体集会

2009 年 2 月に各少女グループから数名で構成された代表者たち、約 200 名が STEP のプロジェクト事務所に集まり、各グループの 1 年間の活動を報告。メンバーのほかにも両親や地域の人々も参加し、報告以外にも少女たちによる歌や踊りも披露された。

●防災訓練

洪水被害の常襲地域で暮らす少女たちに、防災の訓練を実施。各グループの代表者が、洪水発生の予報情報を受けた際に、彼女たちが旗を振って村人に伝えることで事前に収穫物や乾燥させた穀物を保管したり、高齢者、女性、子どもたち、家畜などを安全な場所に移動させる、船など移動手段を確保する方法などを学んだ。

●遠足によるグループ間の交流

各グループの少女たちが一同に集まり、日帰りの遠足を実施。各グループのそれぞれの活動をシェアや今後の活動について話し合いながらグループ間の交流を深めた。

②高齢者支援活動

ギオール郡、ドウロトプール郡の活動地域における高齢者 237 名の状況把握や STEP のフィールドワーカーによる定期的な家庭訪問を実施。また家庭訪問以外にも申請期間内に以下の活動を実施した。

●高齢者に対する医療サポート

申請期間内に医師による高齢者への診断を 2 回実施し、237 名の健康状況を把握した。また検診の結果、必要に応じて医薬品の支給も実施した。

●歩行用杖支給

申請期間中に 50 名の高齢者に歩行用の杖を支給した。

●高齢者集会

2008 年 12 月、STEP の地域事務所において高齢者集会を開催。医療サポートを実施するとともに、少女グループによる演劇や歌を鑑賞するなど、集まった 200 名近い高齢者が楽しんだ。

●高齢者のデータベース作成

少女グループメンバーが STEP のフィールドワーカーのアドバイスのもとそれぞれの地域に暮らす高齢者を訪問し、高齢者の生活状況および健康状態を記載したデータを作成した。

③全国キャラバン

STEPの専務理事であるシヨンジョイ・クマール・ダスが下記の期間で日本を訪れ、全国キャラバンを実施した。キャラバンでは、バングラデシュの農村地域における生活の変化が高齢者や家族に及ぼす影響と、それに対して現地NGO(市民団体)が少女グループを代表とする地域の人々とともにどのように取り組んでいるのかについて語った。

- 実施期間: 2008年11月18日(火)～12月23日(火)
- 開催地域: 日本全国18都道府県(計32回の講演)
- 来場者数: 約680名

【活動の実施経過および活動の成果】

申請期間内での各活動の成果について以下に報告する。

①少女グループ支援活動

ギオール郡およびドウロトプール郡の計21のグループ(878人)に対して定期的な会合の中で、少女たちが子どもの権利、保健衛生、早婚や持参金、高齢者や障がい者へのサポートなどについて学び理解することが出来た。また各グループからの代表の計21人の少女が、2008年11月に実施した保健衛生についての研修を受講し、受講後他のメンバーに定期的な会合で受講内容を共有した。2009年1月には各グループの代表21名へのHIV/AIDSについての研修を実施し、受講後それぞれのグループメンバーに共有した。少女グループメンバーがそれぞれの地域に暮らす高齢者を訪問し、その結果をもとに2009年3月、高齢者の状況が記載されたデータベースを完成した。

②高齢者支援活動

申請期間内に237人の高齢者が医師による検診を受け、検診結果で必要に応じて医薬品が支給された。また50人の高齢者が歩行用の杖を受け取り、支給された高齢者の日常生活における支障が緩和された。少女グループメンバーによる訪問や高齢者集会を通じて、高齢者たち、特に身よりもなく暮らす独居老人と同じ地域で暮らす若者たちとの交流が促進された。

③全国キャラバン

参加者目標数500名に対し、180名上回る680名の参加があり、日本全国の多くの方々にバングラデシュの農村地域の高齢者の現状と地域の人々とともに実施する支援活動について共有してもらうことが出来た。特に海外の生の声を聞く機会が限られている各地方での講演を中心に実施し、日本における高齢者とそれを取り巻く人々の現状との共通課題として問題定義できたことで、参加者が親近感を持って聞くことができた。

【今後の課題】

本事業のそれぞれの今後の課題について以下に報告する。

①少女グループ支援活動

2007年の本活動地域の洪水被害における少女グループメンバーの自主的な最貧困層世帯や高齢者への支援活動に象徴されるように、少女グループの活動は非常に活発に行われており、地域の人々にも認められる存在となってきている。一方、保健衛生など一通りの研修を終えたメンバーへの新たな研修や地域における役割の発掘が求められている。2009年度からはそうした声を反映し、少女グループを地域の防災活動の担い手とする新たな取り組みを実施している。

②高齢者支援活動

ここ数年間の活動で活動地域に暮らす高齢者の状況については、STEP や少女グループのメンバーの働きによりかなり把握でき、高齢者への医療活動も定期的実施され、高齢者自身もそうした活動を認識するようになった。2009 年度以降、これまでの実績をもとに STEP は高齢者世帯への個別アプローチを実施している。それは高齢者の抱える課題が世帯によって異なるため、画一的なプログラムの設定が難しいことの表れでもある。こうした個別アプローチが地域で浸透していけるかどうかは課題である。

③全国キャラバン

今回の全国キャラバンは久々に現地 NGO スタッフを招いて実施した企画であったが、こうした現地の人々の生の声を日本の人々に聞いていただく場を提供し、南アジアの人々と日本の市民が交流していくことも当会の果たす役割と考えており、今後もこうした活動を積極的に実施していきたいと考えている。